



からしだね

2014年
12月号 (500号)

キリストの受難
カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父
協力司祭：デニス・マックゴワン神父
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26
TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624
URL(ホームページ)：
http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



五島 福江島の最北端 三井楽・湊の元カトリック墓碑群

巻頭言	2	ガラスケースの言葉	3
クリスマス・新年のミサ時間	4	研修委員会から	4
あしたの風にのせて	4	ドレミの会からのお願い	4
ハロウィンパーティー	5	植木の剪定	6
宝塚黙想の家から	7	典礼委員会から	7

表紙写真 撮影：吉田智子

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

「義のために迫害される人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである。」
(マタイ 5章10節)

待降節を迎え、教会の典礼暦はB年が始まり、主の降誕、新年の準備と年の瀬のあわただしい季節になりました。そして、一年を振り返り、来年への希望が種まかれる時です。

今年、うれしかったことは、NHKの大河ドラマ「軍師黒田官兵衛」で、官兵衛がキリシタンで、武人として回心の道を誠実に生きた人として知ったことです。最新のニュースで、ユスト高山右近が殉教者としても証聖者としても列福の実現が可能になってきた今、「黒田官兵衛」もまた、あの過酷な戦国時代の中で人間性を失わずに、義に飢え渴き、最後まで信仰を保った人として再評価できるのではないかと思います。

最近、「キリシタン黒田官兵衛」（雑賀信行著 上下巻 雑賀編集工房）の本を読み、その思いがますます深まりました。世に流布している「黒田官兵衛」の本は多数あるのですが、キリシタンとしての官兵衛の実像に迫ることができるはこの雑賀さんの本が一番重宝です。キリスト教に精通していない小説家や評論家の諸本を丁寧に調べ、フロイスの「日本史」やレオン・パジェスの「日本切支丹宗門史」、「マトス神父の回想録」などの宣教師の側から見た資料に照らし合わせ、また当時のカトリックの信仰の実践、信心の時代考証もしています。「キリシタン禁令（排吉利支丹文）1613年」の前後の背景も見えてきます。関ヶ原の戦い（1600年）の後、10年間はキリスト教徒や宣教師にとって平穏な日々が回復し各地に教会堂が再建されました。特に官兵衛と息子長政がいた博多は、「荊棘（けいきょく）のなかにある薔薇のごとく、イエス・キリストの芳香を放っていた。その強烈な感化は、やがて夥しい改宗者を出すに至った」（レオン・パジェス「日本切支丹宗門史」上巻）と記述されるように多くのキリシタンが集まった。しかし、1604年官兵衛が亡くなり、直接徳川家康に物申すキリシタン大名がいなくなり、貿易も1600年に漂着したイギリス人ウィリアム・アダムス（三浦按針）の助言でイギリスやオランダの東インド会社との交易に道が開かれ、貿易のためにスペイン人宣教師に取り入れる必要がなくなったため、幕府はキリシタン禁制に踏み出す時期を窺っていたとのこと。1200万人の人口に対し70万人のキリシタンがいたと言われます。人口の5.8%です。そこに、キリシタン大名有馬晴信の不祥事によって家康の側近のキリシタンの存在も暴かれ、また、植民地主義的な考えの宣教師の言動、ウィリアム・アダムスの中傷なども相まって、もともとキリシタンを嫌っていた家康はキリシタン弾圧を1612年頃から始め、幕藩体制を固める手段にしたのです。長政は、幕府からの疑惑を避けるためにキリシタンの処遇に苦慮したが、黒田家存亡のために、父の礼拝堂、官兵衛記念聖堂を破壊し、自身も棄教し、1614年の宗門改めで、博多最初の殉教者を配下から出しました。

雑賀さんは本の執筆の動機として、「官兵衛を描いた小説や評伝では、この肝心なキリスト教信仰の扱い方について、あまりにも問題が多かった。・・・とにかく集められるだけの資料を読み込んで本書を執筆しようと思い立ったのです。官兵衛が持っているキリスト教信仰はそんないい加減なものではなく、最高権力者である秀吉からの圧力に屈することなく、生涯守り続けたほど大切なものだったはずである。それが侮辱されることは、あまりにも耐えがたかった。」と記しておられます。

事実、官兵衛は最後までキリシタンであったことがマトス神父回想録に記されています。

「この年（1604年春）の初めに、（黒田）如水は上（カミ）において死亡した。・・・彼は治療のためにそこ（有馬温泉）に行っていたのである。そして臨終の際、彼は告解するために神父を呼ぶように願った。ところが、彼の側近は、何故かと言って神父を呼ばなかった。彼は死ぬ前に告解することができなかった。しかし、彼は自分のアニュス・

ディ（神の子羊が描かれたピクシス＝携帯聖体容器のことか？）とロザリオを持ってくるように願い、自分はキリシタンとして死にたいと言いながら、それを胸の上に置いた。」

続いて遺言として、息子に神父たちに好意を寄せるようにと言い、またイエズス会に320石（2400万円相当）を寄進するように命じた。（雑賀、下巻p176～179）黒田家家譜に伝わる遺言には、「神の罰より主君の罰をおそるべし。主君の罰より臣下百姓の罰おそるべし。その故は、神の罰は祈りてまぬかるべし。主君の罰はわび言をもって謝すべし。ただ臣下百姓にうとまれては、必ず国家を失うゆえに、祈りてもわび言しても、その罰をまぬかれがたし。」（雑賀下巻p180）とあり、小さな人々、百姓や小作人への思いやりのある彼の姿と罪びとを赦す神の絶対的な愛を信じていたことが窺われます。そして官兵衛辞世の句は、「思いおく言の葉なくてついにいく道は迷わじなるにまかせて」。雑賀さんは、聖書のイザヤ書30章21節の響きがあると指摘されます。「あなたの耳は、背後から語られることばを聞く。『これがいくべき道だ、ここを歩け、右に行け、左に行け』と。」官兵衛は、評定の時、かならず祈るために、コンタツ（ロザリオ）を求め、大勢の主将や殿たちの前で、十字のしるしをして、「パーテル・ノステル」「アベ・マリア」のロザリオの祈りをしていたとフロイスの日本史に描かれています。（雑賀下巻p70～71）まことに官兵衛は真理の霊、聖霊の導きに信頼していたのです。

NHK大河ドラマでは、秀吉との最後の場面で、官兵衛が大義のため、日本の統一と平和のために働いたことを、そして秀吉がその器でなかったことを嘆く場面がありました。ユスト高山右近とシメオン黒田官兵衛の二人が日本のキリシタンの保護者だけでなく、信仰者としての義に飢え渴き、義（信仰）のために迫害された人生を貫いた日本人として誇れる人であったことは、長い教会生活の今年になるまで知らなかったのです。その存在は姫路城の天守閣の瓦に十字のしるしがあるように、ひっそりと隠された真実だったのです。いま、隠されたもので露わにならないものはないように、その光がもっと強く輝くように願います。わたしたちもまた、自らの信仰を見直し、信仰のために新たな出発の時として新しい年を迎えましょう。

シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり

このしもべを安らかに去らせてくださいます。

わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

これは万民のために整えてくださった救いで、

異邦人を照らす啓示の光、

あなたの民イスラエルの誉です。」（ルカ 2章29～31節）

クリスマス おめでとうございます。

新しい年の希望と愛と信仰の喜びの福音がみなさまの心に

満ち溢れますように！

12月のガラスケースの言葉

「神はその光を見て、良しとされた」

（創世記 1の4）





クリスマス・新年のミサ時間

12月24日 クリスマスイブ 19:00～ (夜半ミサ)
 12月25日 主の降誕 10:00～ (日中ミサ)
 1月1日～3日 11:00～



(典礼委員会)

研修委員会から

中高生お泊り会 宿泊者募集!!

原則 第2土曜 夜

中高生保護者 女性の方 (研修委員 青池、磯野)

あしたの風にのせて

10月25日カトリック池田教会聖堂にてチャリティーコンサートが行われました。歌は本田実千代さん、ピアノ伴奏は岡嶋祐子さん、構成・編曲 小川恵理さん。



収益はカトリック池田教会社会活動委員会を通して、支援を必要としている団体に送られます。



《ドレミの会》からのお願い

12月13日(土) ドレミの会のクリスマス会が行われます。
 もしお家に眠っている小物がありましたら、プレゼント用にご寄付ください。
 現在、34名のハンディーを持った方々が参加し、楽しい時間を過ごしています。
 年齢は小学生から60代ですが、おもに20代、30代の方が多く、男女は半々です。
 毎年皆様のお蔭で、豊かなプレゼントを用意することが出来、心から感謝しています。
 カール記念館の1階和室に、ダンボールを用意いたしますので、お入れください。
 よろしく願いいたします。



(ドレミの会 村嶋)



10月25日ハロウィンパーティー





樹木の越冬と屋根保全のための剪定

本年もカトリック池田教会にある樹木の剪定が10月31日（金）に行われました。御堂と信徒会館、司祭館に囲まれた庭や公道やマリア幼稚園に面した地には、背の高い樹木が東からの順でアラガシ（写真上左の太い幹）・クスノキ・モチノキ（2株）・イヌマキ（2株）・モッコク・西側駐車場のアラガシ（3株）と生垣のカイツカイブキ、ムクゲがあり、それらの剪定は樹上の危険作業になるため池田市シルバー人材センターから派遣された技術者（4名）に依頼し、経費は一信徒の寄付で賄われました。キンモクセイ（2株）・ツバキ（2株）・サツキ（12株）・ソテツ（3株）・ウメ（2株）・アオキなどの低木とカラシダネなどの剪定と、落とした枝・葉を容量60リットルの袋へ袋詰めを行ったのは畠神父様と総務委員会の呼びかけに応じて参加したシニア男性信徒（15名）、女性信徒（10名）でした（写真上右，写真中左）。朝9時半から始めて、昼食を挟んで、14時に電気剪定機でカイツカイブキが剪定され（写真中右）、枝・葉が詰められた袋の数は30となりました（写真下左）。女性信徒が昼食（写真下右）を調理し、畠神父様は全ての写真を撮影しました。尚、今年も中央庭にある雌のモチノキに黄緑花（5月）と赤い実（10月から12月）が付かず、来年も悲観的です。結実させる剪定方法を捜しています。

（文責：大野 健）

宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

■ 日帰り黙想会

12月18日(木) 10:00～15:30 指導：山内十束神父

12月19日(金) 10:00～15:30 指導：山内十束神父

■ 待降節黙想会

12月13日(土) 17:00 ～ 14(日)15:30 指導：ウォード・ビドル神父

12月20日(土) 17:00 ～ 21(日)15:30 指導：山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。



典礼委員会から

2015年信徒奉仕職養成コースの基礎コースが、下記日程で始まります。

日時・開催場所

- | | | | |
|-----|----------|---------|---------|
| 第1回 | 1月31日(土) | 15時～17時 | 高槻教会 |
| 第2回 | 2月14日(土) | 15時～17時 | 豊中教会 |
| 第3回 | 2月28日(土) | 15時～17時 | 豊中教会 |
| 第4回 | 3月14日(土) | 15時～17時 | 吹田教会(仮) |
| 第5回 | 3月28日(土) | 15時～17時 | 吹田教会(仮) |

募集人数：各小教区から5～6名程度

『みんなで担う「信徒奉仕職」』をもとに分ち合いを中心に指導司祭出席の上で信徒奉仕職養成委員会のメンバーが進行役を務めながら行います。

カトリック信者の共通理解を学べ、これから行われるさまざまな養成コース参加に必要となりますので奮ってご参加ください。

参加ご希望の方は、神父様・典礼委員におっしゃって下さい。



編集後記

いろんな行事の写真を撮りに行きます。運動会や文化祭、発表会などの写真を撮りに行く事が多いです。教会行事の場合は、どうしたら新聞記事に合う写真を撮ればいいのか構図を考えての撮影となります。お御堂だとウロチョロできないので難しいですが…。

最近のデジタルカメラやスマホはホントに綺麗に写ります。綺麗な青空や雲があったらすぐに撮影してしまいます。スマホで紅葉と教会を撮影してみました。いい感じで撮れているんですがカラーじゃないのが残念です。皆さまもカメラ片手に出かけましょう！
(di nomi schus)

